

重なる高麗とくしうし桃太郎のてんさくらもるまき
目に見えぬ鬼神も長れと思ふを嵐のぬ入の男女のゆ
きも和らげけい子極きのゆを磨しむる赤草にたれやえさ
の雨しうしはし娘は好りて猿の生所をぬきしうし
の七しうしは狸のねよれしうして危の子柄と見を彼善す
すたは是画しうしはかしくそえ紅粉四圍四の俸けし
とけり先鉢被帳の古さと尋そ世に新しうしは極木り
のはや花とくちの灰とみあきりしうしちうとあま
さうしんや

浦島太郎月

山東系傳

宇治拾遺日

今いむし女巧りしうし免の怪我とるを表はて放ら
りれも息とむくふ落むしうしの種とくしうし来しうし
種とくしうし来しうし来しうし来しうし来しうし来し
隣の女是とう名をみ毎淫よ雀し怪ぬもややな
えらるらうしうしけ在しうしうしの種とくしうし来し
りれもさうしうしあまの来しうし来しうし来しうし来し
の毒虫さくしうしあめとくしうし来しうし来しうし来し

具足忌歌

禪しうし来しうし来しうし来しうし来しうし来し
小袴はうし来しうし来しうし来しうし来しうし来し
柳結しうし来しうし来しうし来しうし来しうし来し

ま〜也スチ アテ 偲スチ 應アテ と 佩スチ 盾アテ 決スチ 拾スチ 碎コト 骨スチ 單スチ せし〜 眠スチ 曳スチ 舟スチ
よおとら 表スチ 帶スチ 肩スチ 單スチ 斗スチ 短ワキサレ の 佩カサシ 刀カサシ 唯スチ 悔スチ 之スチ 抹スチ 額スチ 頰スチ
尚アテ 頭カフ 盧ト 骨サシ 旌モリ

青侍の有りるを ね手多〜 なる由中〜 ねを打り〜
急月のゆへに 織織虫の宿りたる 是を一首詠す
〜 美由皆〜 ねりねい 侍畏りて 青柳のよ
〜 ちりねをけ〜 織七の題の 青柳のみ 又字は
〜 くのゆ〜 ちりねりねを 皆〜 先法を び行
〜 ち〜 ちりねりねを 皆〜 先法を び行
青柳のみ ちりの系 び〜 び〜 び〜 び〜 び〜 び〜

のま皆感〜 眞〜 入り〜 なる 著聞集の 足中
或部 著聞集の 足中 著聞集の 足中 著聞集の 足中
僧〜 ちりねを ねりねを ねりねを ねりねを ねりねを
〜 ちりねを ねりねを ねりねを ねりねを ねりねを
敦光 著聞集の 足中 著聞集の 足中 著聞集の 足中
〜 ちりねを ねりねを ねりねを ねりねを ねりねを
著聞集の 足中 著聞集の 足中 著聞集の 足中 著聞集の 足中
九條 著聞集の 足中 著聞集の 足中 著聞集の 足中 著聞集の 足中
〜 ちりねを ねりねを ねりねを ねりねを ねりねを

